

□講義科目(専門科目)

| | | |
|-------------------|--|------|
| 科目名 | 福祉産業論 | 2 単位 |
| 担当者 | 後藤 芳一(非常勤教員) | |
| テーマ | 修士論文を作成に必要な基本的な研究の方法論(枠組、研究・論文の必要条件、技法など)を学ぶ。産業を分析するために必要な経営の基本的事項(例:戦略、マネジメント)の理論と実践力を学ぶ。講義は演習を中心に行い、福祉用具産業などに触れる。 | |
| 開講形態 | 全回対面形式 | |
| 科目のねらい | <p><キーワード> 論文の枠組、課題の構造化、経営戦略、企画立案とマネジメント、福祉産業</p> <p><内容の要約> 修士論文の作成に必要な基礎学力(例:研究の意義、論文の枠組、研究・論文であるための要件、技法(課題発見と構造化, 論理と分析, 文章, 図表))と、将来、本格的な研究をめざす際に必要な姿勢の修得をめざす。 合わせて、産業を理解するために必要な経営の基本的事項(例:市場、戦略、事業モデル、マネジメント、マーケティング、組織、経営分析)を学ぶ。戦略やマネジメントの知見は、研究を行う力としても寄与することをめざす。</p> <p><学習目標> 医療・福祉マネジメントの基礎的概念を理解して応用例を示すとともに、意義を事例と共に示すことができる。 論文執筆に必要な研究の方法論を理解できる。自らの考えを論理的に組み立てて他者に説明し意見交換できる。</p> | |
| 授業の進め方 | <p>第1 回 講義の目的(研究の目的と意義、マネジメント理論の研究への活用) (())内の前半は医療福祉の研究に関わること、後半は経営やマネジメント関係(以下同じ)</p> <p>第2 回 枠組の俯瞰(医療福祉事業の形態、公共と営利・効率と公正)</p> <p>第3 回 理論と歴史(量的・質的研究、マネジメント理論の発展)</p> <p>第4 回 社会の動向(社会保障への要請、成熟社会と持続性)</p> <p>第5 回 福祉と産業(産業の医療福祉における役割、競争とポジショニング)</p> <p>第6 回 資源の管理(研究資源と組合せ、分析の基本的技法)</p> <p>第7 回 課題の設定(研究の範囲と階層、スコープと体系図)</p> <p>第8 回 対策の立案(研究方針の選択、経営資源の統合と代替案の比較)</p> <p>第9 回 分析と評価(研究資源と組合せ、経営の分析法と統計)</p> <p>第10回 運営と管理(研究の工程管理、マーケティング・ミックスとプロジェクトマネジメント)</p> <p>第11回 意思決定論(代替案の立案、意思決定(感度分析ほか))</p> <p>第12回 組織と体制(研究とキャリアパス、動機づけ・リーダーシップと組織)</p> <p>第13回 論文の文章(論理と文章、縮約)</p> <p>第14回 事例と演習(研究論文、事業モデル)</p> <p>第15回 講義の総括(研究・論文とマネジメントの関わり)</p> <p>(演習を中心とするので、上の内容を盛り込みつつ、順序は変更することがある)</p> | |
| 事前学習の内容 学習上の注意 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義では、発言や発表を歓迎し重視する。 ・発言や発表の内容は、毎回講義の前や講義中に出題する演習課題、自身の研究の進捗、その他公私の活動などを期待する。 ・上記の発表は基本的に任意なので、積極的な姿勢で講義に参加する事が望ましい。 ・テキストを、指定する講義回までに読んでおくこと。 | |
| 本科目の 関連科目 | 研究方法概論、医療福祉経営論、医療福祉経済論、保健・医療・福祉サービス論、経営管理概論 | |
| テキスト | <p>後藤芳一・星川安之(2011)『共用品という思想』岩波書店 後 正武(2001)『意思決定のための「分析の技術」』ダイヤモンド社</p> <p>ほかに、毎回、資料を配付</p> | |
| 参考文献 | <ul style="list-style-type: none"> * 鷲田小彌太『入門・論文の書き方』PHP新書, 1999 * 清水幾太郎『論文の書き方』岩波新書, 1959 * 大野 晋『日本語練習帳』岩波新書, 1999 * 石村貞夫『入門はじめての統計解析』東京図書, 2006 | |
| 成績評価方法 と基準 | 演習(30点)、課題発表(30点)、レポート(20点)、講義への寄与(20点)により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする | |